

## 組織目標評価報告書(平成30年度)

部局名: グローバル・ディスカバリー・プログラム

部局長名: 中谷 文美

目 標	目標の達成状況(成果)及び新たに生じた課題への取組 (部局での検証とそれに対する取組)
<b>①教育領域</b>	
<b>①-1 目標</b> 1. 国内外の高校等に対するリクルート活動の継続やウェブサイトの充実を通じて、優秀な志願者の確保に努める。 2. 第1期生の4月入学者の円滑な受け入れに向け、各種オリエンテーション・履修指導を着実に実施する。 3. 国際入試を経て渡日する入学者に対して、グローバル・パートナーズをはじめとする関係部署と連携し、学生支援委員会を中心に、渡日前後の手続きについて十分なサポートを提供する。 4. 十分な志願者を確保する手段としてのディスカバリー奨学金に関して、財政状況も踏まえながら、実現可能な支給制度構築に向けての検討を行う。 5. 学生一人ひとりの学習状況を把握し、適切なアドバイジングやサポートが出来るシステムを検討する。 6. 学年進行に伴い、開講科目の充実を図るなど、カリキュラムの円滑な実施に努める。 7. インターンシップ先や留学先開拓に向けて、学生の受入が可能な企業や大学等の確保及び派遣手続きの明確化に向けて検討を開始する。	<b>①-1 目標の達成状況及び新たに生じた課題への取組</b> 1. 海外リクルートについては、韓国、シンガポールの留学フェアへの参加、アメリカ、中国、オランダ、ドイツの高等学校等への個別訪問、岡山を訪問している海外の高等学校学生への説明会、岡山大学国際同窓会支部との連携等を行った。国内リクルートについては、入試説明会、松山、大阪、姫路で開催された進学ガイダンスの参加、オープンキャンパスの開催、横浜、神戸、沖縄等で開催された大学進学フェアへの参加、東京、大阪、長野、静岡、兵庫、広島、香川及び岡山県内等の国内18校等への個別訪問を行った。さらに入試広報のため、海外及び国内の進学情報雑誌にプログラム情報を掲載した。また、在学生の意見を聴取し、ウェブサイトより充実したものとなるよう更新した。その結果、国際入試(第1期)出願者18人中、12人がこれらのリクルート活動を通して出願してきた受験生であり、国際入試(第2期)には44人(2.2倍)、国際バカロレア入試には6人の出願があった。国内入試では、一般型入試は1.5倍、実績評価型入試は3.8倍の高い倍率となった。 2. H30年4月入学者の円滑な受け入れのため、合格発表後すぐにオリエンテーションを開催し、履修に関する説明を行い、入学の約2、3ヶ月前から入学前教育を行った。 3. 日本での生活に必要な知識や語学能力が不足している新入生に対して在学生がチューターとしてサポートし、さらに既存のチューター制度ではカバーできなかった学生のためにディスカバリー独自のチューター制度を作り、よりきめ細やかなサポートを可能とした。 4. H29年度、H30年度入学者を対象とした奨学金制度及び大学の財政状況を踏まえ、H31年度以降も実現可能な国際入試入学者を対象とした奨学金制度を確立した。 5. 在学生の学習・生活支援に関しては、授業担当教員、担任、アカデミック・アドバイザーで連携したモニタリング制度を実施するとともに、学生支援委員長に漏れなく学生に関する情報が入るよう、月2回開催している教員会議を利用し、情報を収集する仕組みを構築し、実施している。 6. 在学生のヒアリングを実施し、カリキュラム充実、入試制度及び広報の改善のための参考としている。 7. 従来のEPOKのスキームに加え、ディスカバリー独自の制度を作るため、University College Utrechtと学生間交流に関する附属文書を締結し、早ければ来年度から学生派遣及び受入を可能とした。また、早期から留学に向けての準備をさせるため、学生及びアカデミック・アドバイザー向けのタイムラインを策定した。
<b>①-2 年度計画との関連</b> ・年度計画【50-2】に、「持続可能なグローバル社会の構築に資する人材の養成を目的とする教育を着実に実施する」と記載がある。計画達成のためには、奨学金の整備に加え、きめ細かい学生支援の実施が不可欠である。また、学年進行に伴い、開講科目の追加も含め、カリキュラムの更なる充実を図る必要がある。グローバルな課題解決に向けて行動出来る人材育成のためには、海外留学やインターンシップの受入先の開拓及び派遣手続きの明確化(英語対応を含む)は不可欠である。	<b>①-2 大学全体への貢献</b> ・国際入試や国際バカロレア入試を経てH29年10月に入学した第1期生のうち、5名が平成30年度に学内の各学部で学ぶマッチング・トラックを選択し、各学部での授業を履修している。また、ディスカバリー・プログラムでは、学部の枠を超えた横断的な学びを可能としているため、トラックを選択する前の1年次でも、各学部で開講する授業を履修している。海外留学生在が各学部の授業を履修することで、大学全体のグローバル化の推進に貢献している。
<b>①-3 目標とする(重要視する)客観的指標</b> 1. ディスカバリー奨学金の支給制度の構築 2. 学生の生活面及び学習面におけるサポート体制の更なる充実	<b>①-3 目標とする(重要視する)客観的指標を達成するための取組・達成状況</b> 1. H29年度、H30年度入学者を対象とした奨学金制度及び大学の財政状況を踏まえ、H31年度以降も実現可能な国際入試入学者を対象とした奨学金制度を確立した。 2. 在学生の学習・生活支援に関しては、授業担当教員、担任、アカデミック・アドバイザーで連携したモニタリング制度を実施するとともに、学生支援委員長に漏れなく学生に関する情報が入るよう、月2回開催している教員会議を利用し、情報を収集する仕組みを構築し、実施している。また、日本での生活に必要な知識や語学能力が不足している新入生に対して在学生がチューターとしてサポートし、さらに既存のチューター制度ではカバーできなかった学生のためにディスカバリー独自のチューター制度を作り、よりきめ細やかなサポートを可能とした。
<b>【総括記述欄】</b>	
プログラム開始後、2年目を迎え、平成31年3月現在で86人(日本を含め、21カ国)の学生が在籍している。より良いプログラムに発展させるために、今年度は学生のニーズに対応したアカデミック日本語教育の強化、カリキュラムの充実、入試制度の改革、リクルート体制の見直しやウェブサイトの更新に着手した。来年度は、マッチング・トラックを選択した学生は各学部での専門科目の授業を履修するとともに、留学にも赴く予定である。このように、プログラム、ディスカバリー生とともに、新たな段階へと進んでいくために、来年度は、今年度以上にディスカバリー内、各学部及び全学センターとの連携を強化する必要がある。在学生の教育を充実する一方で、安定的に優秀な志願者を確保するためのリクルート制度及び入試制度の改革に取り組む必要がある。	